

閉会挨拶

稲葉 光行

本日は長時間、このシンポジウム、人間科学研究所の年次総会及び私立大学戦略的研究基盤形成支援事業のキックオフシンポジウムにご参加いただき、ありがとうございました。こちらにお越しいただいた方々、発表いただいたパネリストの先生方、大変刺激的な講演をいただきましたソイダン先生にお礼を申し上げます。それからポスターを発表された方々、非常に素晴らしい有益な内容を発表いただいたと思います。ありがとうございました。スタッフの方々、アルバイトの方々、通訳の方々、長時間ありがとうございました。

全体を振り返ったところで少しコメントをさせていただきたいと思います。今日もパネルで議論になったインクルーシブ社会、インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究というタイトルですが、先生方と話し合ってこのタイトルに決めたとは言え、本当にこんな大きなタイトルで良かったのかなと思っている所もありました。実は我々も大学院生に論文の指導をするときに、ビッグワードを使うと収拾がつかなくなるから、あまり大きな単語を使うな、テーマを絞れと指導するんですが、そう言いながら一方でこういうすごく大きな単語を付けてしまって、本当にいいんだろうかと思っていました。ただ今日のパネルディスカッション、ソイダン先生の講演、ポスターセッションなどをずっと拝見しまして、逆にこれは何なんだろうと皆が考えるような大きなキーワードを使って良かったかなと思いました。特にパネルディスカッションで議論があったように、インクルーシブ社会とは何かということだけでも多くの方が違う意見を持っておられるとか、学実連携についてもそれぞれ研究者が違う意見を持っている。そして、我々のプロジェクトの内部の人間だけではなくて、今日来られた方々もそれぞれ異なる文化、学術的にもフィールドの面でもこれまでの生活でも、異なる文化を持っていて、そういう人たちがここに集まっていろいろな考えをぶつけ合ういい機会になったのかなという気がしています。今日は、インクルーシブ社会とか学実連携とかという大きなテーマを出すことで、皆が議論をして、皆が文化を持ち寄って、それによって議論、対話することで成長できる、そういう場になったのかなという気がします。このような場を持つことで、ソイダン先生が講演で言われたような、皆が歩み寄るような対

話もできていくと思いますし、ある意味で文化を超えた対話につながっていくのではないかなという気がしました。今日はどうも長時間ありがとうございました。今後とも、特にこのインクルーシブ社会とは何かという根源的な疑問も含めて、研究と実践を続けていきたいと思いますので、どうぞご支援とご協力をよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。



シンポジウム終了後、ハルク・ソイダン氏を囲んで。

(左から) 土田宣明、中村正、稲葉光行、ハルク・ソイダン、松田亮三、谷晋二、小泉義之。